

篠山・天神川

武庫川もう一つの源流

第 124 回武庫川エコハイク

2017.9.9 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500 k m²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の7市1町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える2級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、平成22(2010)年10月、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

武庫川の源流 武庫川は篠山市を源流とするが、普通には田松川の谷中分水界、あるいは真南条川の上流愛宕山に求められる。もう一つは古市の西の松尾山と白髪岳周辺の谷から天神川が流れ出し、古森で武庫川に合流する。

古市宿 古くから栄えた宿場町。くらがり街道が通る。かつては杜氏たちが朝早立ちしてここを通ったという。

宗玄寺 赤穂義士の一人不破数右衛門の父母と数右衛門の二児が身を寄せていた寺で、吉良家討ち入りの前それとなく暇乞いに来た数右衛門に母から白無垢の襦袢を渡された数右衛門は討ち入りの際これを着て参加したという。毎年12月14日には義士祭が行われる。

蛭子(えびす)神の伝承 蛭谷にあった天然石の蛭様が盗まれて大和の丹波市(たんばいち今の天理市)に移り、その後取り返したが、大和の丹波市は大変繁盛したという。宗玄寺前の蛭神社に祀られる。

道標と道路元標 古市宿を西に行くくと大阪道と播磨道の分岐の道標がある。文化14(1817)年の銘がある。「左たんば・但馬」「右いせ道右はりま・左大坂はりま」隣に古市村の道路元標がある。これは大正年間に全国の各村に設置が義務付けられ村の中心部に設置された。

不来坂(このさか) 源義経は寿永3(1184)年平家追討のため京を発ち、丹波街道を播磨三草山に向かい急走した。途中峠に平家が待ち伏せしていると考えたが、一兵もおらず、「平家来ぬ坂(不来坂)」といったと伝えられる。地元では「こぬさか」と呼んでいる。

水害復旧の碑 平成公園内にある。昭和58(1984)年9月28日台風10号に伴う集中豪雨で天神川流域は甚大は被害を受けた。住山地区で山腹崩壊4箇所、橋流失10箇所、床上浸水6戸、床下浸水30戸が被害を受けた。災害復旧は昭和60年に完成した。復旧の碑には「春水四澤満」とある。

住山 住山の名前は谷の奥にあることから「隅山」から来たという。

集(つどい・住山) 不来坂から天神川に沿って道を右にとると住山があり、中に「集」という集落がある。ここは義経軍が兵を集めたことからこの名が残っているという。すぐ西に三草山に向かう「集坂」がある。

平家の尼の歌 平家が敗れた後残されて尼になり住山の里に移り住んだ人の歌が残っている。

恋しくば 尋ねても来ん 白髪岳 隠れは宇久濟みあらじ 住山の里

白髪岳、松尾山登山口 ワン谷川(左股)と寺谷川(右股)との合流点が登山口であり、案内図がある。白髪岳(標高721.8m)松尾山(687m)いずれも文保寺の南側に位置する。

寺谷川 松尾山の山中から流出する谷。

不動の滝 不動明王の滝ともいわれ、不動の行者たちがこの滝で心身を浄めていたという。落差約25m、2段に落ちる。

本堂跡 大化元年、法道仙人により開基された高仙寺の跡、現在ただ一つの建物愛宕堂がある。高僧のものと思われる墓碑や石造物群がある。

卵塔群 僧侶の墓碑、大小さまざまな形の無縁塔(卵塔)が40数基。

仙の岩 仙人岩ともいわれ、法道仙人が岩上で王城を加持し、四海の民家の安寧を願ったとのいわれがある。法道仙人はここで聖観音を彫ったという。一枚の巨岩、側面に人の足跡らしきものが彫られ、馬の背の岩盤はだるま型の巨大な岩峰。東側の眺望が開ける。

千年杉 樹齢数百年、樹幹は三抱え半ある。

山城跡 松尾山頂(しょうびざん 687m)。山頂は平らで城跡、熊笹の中に城石がある。酒井主水介氏治の城跡である。

高仙寺跡 大化元(645)年法道仙人により開創されたという。天台宗丹波三山の一つとして全盛期には本堂はじめ、阿弥陀堂、不動堂、勝軍地藏堂、妙見堂などのほか塔頭寺院が26坊を数えた。文保寺と合わせて山岳仏教の修行地であったという。大正10(1921)年、現在の南矢代の国道176号線沿いの地に移転している。

法道仙人 法道仙人はインドから渡来し鉢を持って供養を受けていたので「空鉢仙人」と呼ばれた。播磨の国をはじめ篠山市から三田市北部の寺院の多くは法道上人の開創といわれる。龍蔵寺、文保寺、弘誓寺、高蔵寺(以上篠山市)、蓮花寺、観福寺(以上三田市)などで県下に110ヶ寺あるという。法道仙人にはいくつかの伝承が知られる。

肩越えの辻 松尾山から白髪岳に向かう平らな鞍部にある。北側の文保寺、東側見内等へ下る道が分岐する。

文保寺 天台宗松尾山文保寺(しょうびざんぶんぼうじ)。大化元(645)年法道上人が開祖。天歷年間(10世紀半ば)戦火により焼失し、文保年間(14世紀初頭)再興され文保寺といわれた。その後戦国時代には明智光秀の丹波攻めの戦火で焼失、大正年間に再建された。楼門(仁王門)は、元中2年(1385年)、鎌倉五山のひとつ建長寺の楼門を模して建立されたが、天正の乱で焼失後、現在の楼門は天正末期に建立されたものと云われる。篠山市内の楼門の中では最大規模のもので、篠山市文化財に指定されている。三間一戸、入母屋造で、肘木に唐様が見られ、全体は和様を基調としている。大正時代に改築されたが、上部には再建時の古い部材も随所に見られ、全体的には室町時代末期の構造的風格があり、市内最古の制を遺して歴史的風格を漂わせている。尚、文保寺は大国寺(味間奥)、高蔵寺(高倉)と並ぶ「丹波篠山もみじ三山」の一つで、いずれも天台宗の寺院。

JR 篠山口駅 JR 福知山線、宝塚線の接点にある駅。篠山との間に篠山線があったが篠山口～篠山～福住は昭和47(1972)年廃止。